



5分で分かる☆ 「Post-2015」とワカモノ

2015年5月
Japan Youth Platform for Post-2015

Post-2015とは？

「ポスト2015開発アジェンダ(Post2015 Development Agenda)」(以下Post-2015)とは、2016年から2030年の15年間に世界各国が共通に目指す目標のことです。世界の貧困をなくし、良い環境を保ち、平等で公正な社会を築くためにどうしたらいいのか。世界中の人がアイデアを出し合い、目標作りを進めています。

「Post(ポスト)」とは、英語で「～の後」という意味です。「Agenda(アジェンダ)」は取り組むべきテーマのこと。「2015年の後(つまり2016年から)、世界で取り組むテーマ」という意味になります。

これまでの経緯

(1)貧困をなくすための取組

世界の貧困をなくすための取組は、これまでもありました。2000年9月に採択された「国連ミレニアム宣言」では、2015年までに世界の貧困を減らすために世界が取り組む8つの目標が示されました。これが「ミレニアム開発目標(Millennium Development Goals; MDGs)」です。「ミレニアム(千年紀)」とは、キリストの誕生から数えて1000年ごとの区切りを意味します。3回目のミレニアムを目前にした2000年に採択されたことから、この名前が名付けられました。

(2)良い環境を取り戻すための取組

世界中で深刻化する環境問題に対処するため、1992年にブラジルのリオ・デ・ジャネイロで「国連環境開発会議(リオ会議)」が開催され、「持続可能な開発」のために「アジェンダ21」という世界中で取り組む目標が決められました。リオ会議から20年後の2012年には「国連持続可能な開発会議」が開催され(リオ+20)、環境と調和した経済「グリーンエコノミー」のあり方などが議論されました。

「ミレニアム開発目標」はそれなりに成果を上げましたが、まだまだ世界の貧困はなくなっていない。また、環境問題も依然として深刻です。そこで、ミレニアム開発目標の期限が切れる2016年からの15年間、新たにPost2015として、開発分野(途上国の貧困削減や教育・衛生の向上などに取り組む分野)と環境分野の目標を統合した目標を設定することになりました。

開発分野

ミレニアム開発目標(2001～2015)

【1】極度の貧困と飢餓の撲滅、【2】初等教育の完全普及の達成、【3】ジェンダー平等推進と女性の地位向上、【4】乳幼児死亡率の削減、【5】妊産婦の健康の改善、【6】HIV／エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止、【7】環境の持続可能性確保、【8】開発のためのグローバルなパートナーシップの推進

環境分野

様々な環境問題・持続可能な開発に関する会議(一部)

1972年 国連人間環境会議
1992年 国連環境開発会議
2012年 国連持続可能な開発会議

ポスト2015開発アジェンダ

2016年～2030年に世界で取り組むべき17の目標。開発と環境の目標を統合。

持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）



では具体的にPost-2015での目標とはどのようなものなのでしょうか？

現在議論されているのは、Sustainable Development Goals(SDGs)という17項目にわたる目標です。以下に示す17項目は大項目で、それぞれの項目の中に、さらに具体的な目標が議論されています。英文のみとなりますが、下記にリンクがありますので、ぜひ詳細の方もご覧ください。これらの項目とその内容は、2014年時点のものであり、現在も詰め作業が行われています。まだ私たちが声を発信することにより、この目標に影響を及ぼすことのできる可能性があるのです。

目標 1. あらゆる場所のあらゆる形態の**貧困を終わらせる**

目標 2. **飢餓を終わらせ**、食糧安全保障および栄養改善を実現し、**持続可能な農業を促進**する

目標 3. あらゆる年齢のすべての人々の**健康的な生活を確保し、福祉を促進**する

目標 4. すべての人々への包括的かつ公平な**質の高い教育**を提供し、生涯学習の機会を促進する

目標 5. **ジェンダー平等を達成**し、すべての女性および女子のエンパワーメントを行う

目標 6. すべての人々の**水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保**する

目標 7. すべての人々の、安価かつ信頼できる**持続可能な現代的エネルギーへのアクセスを確保**する

目標 8. 包括的かつ持続可能な**経済成長**、およびすべての人々の**完全かつ生産的な雇用とディーセント・ワーク(適切な雇用)**を促進する

目標 9. レジリエントな**インフラ構築**、包括的かつ持続可能な**産業化の促進**、および**イノベーションの拡大**を図る

目標 10. 各国内および各国間の**不平等を是正**する

目標 11. 包括的で安全かつレジリエントで**持続可能な都市および人間居住を実現**する

目標 12. **持続可能な生産消費形態を確保**する

目標 13. **気候変動およびその影響を軽減**するための緊急対策を講じる*

*国連気候変動枠組条約(UNFCCC)が、気候変動への世界的対応について交渉を行う一義的な国際的、政府間対話の場であると認識している。

目標 14. 持続可能な開発のために**海洋資源を保全**し、持続的に利用する

目標 15. **陸域生態系の保護・回復・持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・防止および生物多様性の損失の阻止**を促進する

目標 16. 持続可能な開発のための**平和で包括的な社会の促進**、すべての人々への**司法へのアクセス提供**、およびあらゆるレベルにおいて**効果的で説明責任のある包括的な制度の構築**を図る

目標 17. 持続可能な開発のための**実施手段を強化**し、グローバル・パートナーシップを活性化する

一般財団法人CSOネットワーク ホームページより引用

<http://www.csonj.org/mdgsnews/owg-sdgs-japanese-translation>

各項目の詳細「Open Working Group proposal for Sustainable Development Goals」(英文)

<https://sustainabledevelopment.un.org/focussdgs.html>

Q. 国連の目標って言われても・・・
遠い世界のことにはしか思えないよ。

A. **そんなことはありません。**
ポスト2015で決められることの中には、私たち日本の若者にも関係することが多くあります。例えば目標8「すべての人々の適切な雇用（ディーセントワーク）」はブラック企業の対策につながりますし、目標5「ジェンダー平等の達成」は女性が不当に扱われることの多い日本の職場では重要な項目です。これ以外にも、教育、格差是正、福祉対策など、多様な分野が関わっています。

Q. でも、偉い人たちが決めてるんでしょ？
やっぱり若者にできることなんてないよ。

A. 最終的に決定するのは各国政府から派遣された官僚ですが、そこまでに世界中の人々が意見を述べるができます。**日本の普通の若者も世界の目標作りに参加できます。**

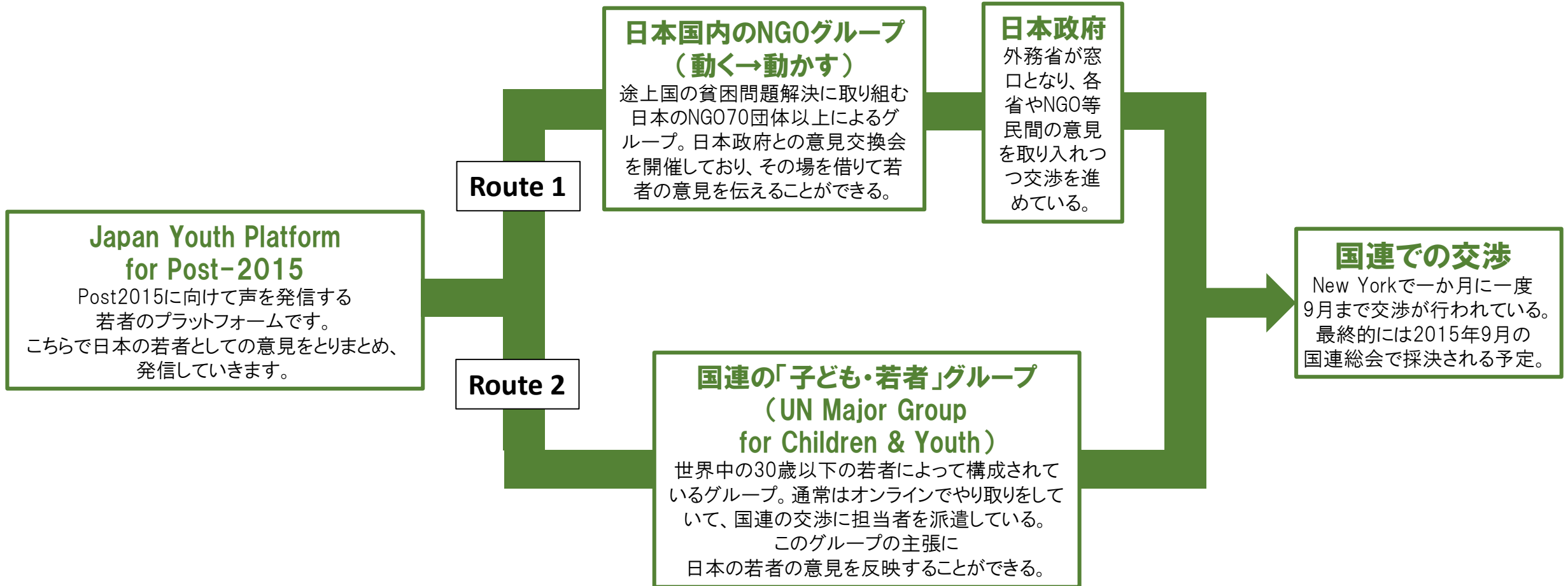
2012年に開催された「国連持続可能な開発会議」では、世界中から集まった若者が、各国政府の代表に粘り強く働きかけ、会議の成果に大きな影響を及ぼしました。

Q. この目標がどうなっても、
私たちの生活に影響ないでしょ？

A. Post2015の取決めは強制力はありません。
しかし、今後世界や日本の様々な行動、約束がPost2015の成果を基に行われることが予想されます。1992年のリオ会議では、「アジェンダ21」に基づき、日本の多くの自治体が独自の取決めを作りました。**Post2015で決まったことは必ず日本にも返ってきて、私たちの生活に影響を及ぼします。**

日本の若者がPost2015に声を届ける2つのルート

Japan Youth Platform for Post-2015(JYPP2015)では、主に2つのルートで国連に日本の若者の意見を届けます。
ぜひあなたもJYPP2015に参加し、意見を世界へ発信しませんか？



◆国連の交渉に市民が声を届ける仕組み「メジャーグループ」

一部の国連会議には、市民も意見発信に参加できる仕組みがあります。

以下の9つの「メジャーグループ」というグループがあり、そのグループ単位で交渉の際に意見を伝えることができます。

なかでも、「子ども・若者メジャーグループ」は最も活発なメジャーグループのひとつです。

1. 企業・産業、2. 子ども・若者、3. 農民、4. 先住民族、5. 地方自治体、6. NGO、7. 科学・技術者、8. 女性、9. 労働者・労働組合